特253
789

昭和十二年十二月

文學博士 谷本富氏講演
日本精神の考察……一頁
大阪毎日新聞社東亞通信部長 長岡克曉氏講演
支那事變の經過と我國際關係……廿九頁

京都經濟會

始

特253
789

日本精神の考察

文學博士　谷本富氏

（昭和十二年六月十六日　於例會）

諸君！只今服部君からの御紹介に、先生は余り有名だから紹介する必要がないと云ふことでしたが、成る程名高いことは非常に名高いので、それは日本だけではありませぬ、世界中何處へ行つてもアフリカなどの野蠻國へ行かなければ大抵通りませう。こゝ京都には相應長く住つて居りました。丁度明治三十五年の暮に神詰つて外國から歸つて參り、それから間もなく京都に住ひました。これは京都帝大に文科大學を立てるから、引受けて呉れと云ふので、三年餘り留學もした次第でありますが、併し總長になる積りでは固より無かつたのです。留學中ベルリンで伊藤博文公にお逢ひした時のお話に、總長も學長も何も彼も一緒にしたやうな御挨拶で、大いに恐縮しましたが、兎に角三十六年一月から京都に住ひました。ところが四十六年八月に御承知の乃木將軍腹切り事件で、自分は首を斬られましたので、すぐ京都から都落ちして、芦屋の方へ參りました。芦屋は御承知の通り阪神間樞要の場所で、富豪の居る所であります。私は勿論富豪ではない。名前だけは富と云ふ字がついて居りますが、（大笑）何はともあれ先づ芦屋でも草分の格ださうで、有名と言へば有名かも

知れませぬ。爾來二十五年程になります。それでも京都へは毎週二回學校の講義に參つてゐます。私は元來何をするよりも講釋をすることが好きで、好きこそ物の上手なれと云ふ譯ではありますまいが、今朝もそれで芦屋から出て來たのですが、お前の話など今時は誰も聞いて居らないだらうと諸君は言はれるかも知れんが、これでも西本願寺の龍谷大學には三十餘年勤續して居り、又現に京都帝國大學教育研究會の名譽會長です。そして又大學の講義の外に、元來右の通り話が好きなものですから、諸方で講演をやります。これでも憚りながら東京の「雄辯」社では曾て私を全國大雄辯家の横綱にしてゐたやうです。私より前には尾崎行雄氏だつた相ですが、同氏はお氣毒ながら昨今は大きな聲も出す、第一耳が聽えないと云ふ有樣です。さう云ふ譯で諸君の中にはこれ迄とてもどこかで私の講演をお聽き下すつた方も隨分あるだらうと想ひますが、金持の連中は講演など詰らんと思はれるかも知りませぬが、それは思ふ方が惡いので私の地位は丁度雁次郎の樣なものですね！雁次郎とは年が四つ違ひます。先年雁次郎の死にます前に、會つて話をしましたところ「先生！矢張り私が四つ違ひの兄貴ですか？先生は名高くなられたから、まう同じ位かと思つてゐました」と云つて大いに笑つたことがあります。大講演は今でも隨分盛んにやります。そして何分雁次郎同樣の事ですからお禮は又隨分高い事も御推量を願つて置きます。（所得の話などはわざと省きます）

斯樣な次第で三十餘年來今も尙ほ毎週二回芦屋から遙々と京都へ講義に來るのは龍谷大學の方で無論帝國大學の方ではありませぬ。併しさればと云つて帝大を辭られたので本願寺の阿彌陀さんに拾つて貰つたのだなどいふケチなことを申すのでムりませぬ。それは昔ドイツ留學中にまだ部屋住

みであつた大谷光瑞師の方から私を拜んで懇願して連れて行かれたのです。偖先般も右の龍谷大學の講義が濟んで教授室へ歸つて來ると服部君が見へられて、一つ銀行集會所で講演をして呉れないかと言はれる。それには私も少々驚いた。エー銀行集會所で……。併しそこは尊攘堂のあつた所だと服部君が云はれた時、それまで私は腰かけて話して居つたのですが、本當に立上つたのです。そして私はハラ〳〵と落涙せんばかりでした。服部さんも定めて驚かれたでせうが、尊攘堂の創立者たる故品川彌二郎子爵は私の大恩人である。品川先生は私の先師と申してよいか？恩師と申してよいか？非常に御世話になつたのであります。その緣故の深い尊攘堂のあつた所で、私に話をせよと言はれるのは、これはきつと先生の思召であらう。私は自ら進んで參りますと云ふことになつて、今日此處に出て參つた樣な次第であります。その時演題を直ぐ出すことも出來たのでありますが、尙ほ一晩とくと考へさせて頂いて、翌日速達で申上げると御返事しますと、まだ二週間程あるから、それに及びませぬと云ふことで、手紙で申上げて置いたのが即ちこの日本精神の考察と云ふのです。或ひは寧ろ日本精神の一面觀と甲した方がよいかも知れませぬ。

（二）

ところで斯く申す私は素、四國で生れたのであります。承りますと服部君も亦四國ださうで、私は讃岐、服部君はお隣りの阿波です、妙な御因緣と申して宜しからう。そこで私は又世間では今弘法で通つてゐるやうですが實は昔の弘法よりは寧ろ偉いと云ふことを、先年高野山で演說して、それを又後ちに眞言宗の機關雜誌に載せたことがあります。過日も大阪の岡嶋會館で、南海鐵道株式會

社主催の四國八十八ヶ所出開帳披露の大講演會に懇請されて最後に登壇して「私が只今御紹介を受けた谷本でありますが、滿堂の諸君、一体私をなんぼうと思看られる？私はほんまは七十二才じや表向は妙な都合で一つ少く七十一才になつてゐるが、何も惡意があつて戸籍を隱して居るのではありませぬ。その譯は時間が乏しいので省略するが、何はともあれ、昔弘法大師は六十一か二で入定された、從つて私の方が十年も上だ！あんた方何の爲に大師を拜むのか知らぬが、若し命が延びる爲に拜むのなら、高野よりは芦屋へ參られた方がよからうと言つた。無論戲談だと斷はるにも及びますまいが、とにかく「大阪朝日」の天聲人語欄などでは、毎々渾名して今弘法といつて居ります。その讃岐といふのは高松の生れなのです。併し品川先生の長州とは實に早くから不思議の御緣故があります。そのことを先きに一寸申させて頂きたいのですが、私の父は微々たる一士族、否、卒でした。それで慶應二年に舊幕府の長州征伐がありましたが、その際高松も亦御親藩といふことから出兵致しまして、父もその一員として長州に行つたのであります。併し何もわざと亡い親を褒めるのではありませぬが、その時私の父はまだ二十か二十一だつたと思ひます。今二十才や二十一才の者では大したことも出來ませぬが、幕末維新前後の騷ぎの時、事をなしたのは皆その年輩で、現に品川子爵などもその頃はまだ二十四五才でしたらう。さて大舞臺が廻つて、このところ三十年餘りも立つて、明治卅三年の秋品川先生の御世話で、私が山口の高等中學校に奉職致しました時、萩の或る人から突然手紙を寄越して「昔長州征伐の時に高松藩の谷本と云ふ人があつたが、貴方はその御緣者でないか？」と問はれたので、私は大いに嬉しかつた。私の父は年が若かつたが、漢學もよ

く出來、尙ほその外に國學もやり、別して水戸學もやりました。當時長州でもこれを研究した同好の士があつたことゝ想はれます。但し父は不幸短命で私の六才の時に僅に廿七才で亡くなつたのですが、父は早く舊藩の學校の先生をして居られたので、書物は多少家に藏してありました。私は自分で言ふとをかしいが、子供の時は夙に神童といはれた位で、六、七才の時から家の書物は勝手に見ることを許されました。「古事記」それは本居の「古訓古事記」や、水戸「弘道館記」の藤田東湖の「述義」なども皆十才前後で讀んで居ります。中學校などへ入つてもちつとも稽古しませぬ、勝手に勉強してゐました。先生は固よりそんなことをしてはいけませぬと言はれるが、併しされぱと云つて試驗となると何處を出されても百点です。その頃に早く吉田松陰先生の書かれた物「武教講錄」なども讀んだやうに覺えて居りますが、これは或は父が長州から持つて歸つたのかも知りませぬ、私は圖らず、子供の時から右樣の緣故があると云ふことを一言申上げて置きます。

併しから云ふ事は明治維新前の古めかしいことで、私が世に出るやうになつたのは必ずしも初めから品川先生にお賴みして出して貰つたのではありませぬ。元來私は人に賴ると云ふことは致しませぬ、私は素より東京の帝大を出たのですが、學士でありませぬ、選科生でした。けれども實際級長も致しました。明治二十二年夏七月に哲學科の選科生として卒業したのですが、他の當り前の學士になるには九科目の試驗を受ければよいのですが、私は餘裕綽々で十二科目受けたので、選科といつても本科生よりも多く習ひ、憚りながら、成績も等輩を拔いてゐたやうです。それから又其の後一年間は居殘つて**ヘルバルト**派の敎育學を傳習致しましたが、憚りながら私は日本に於ける科學的

教、育、學、の、開、山、で、あ、り、ま、す。龍谷大學には二人の御開山樣が居られる、眞宗の開山は親、鸞、聖、人、教育學の開山は谷、本、博、士だと前の園、田學長などはよく冗談を申しました。斯くて明治二十三年の夏その教育學の傳習も首席で卒業しましたが、今と違つて、卒業生が就職に困ると云ふ樣なことは固よりありませぬ。否、私などは一番に東京の第一高等中學校、それから又熊本の第五高等中學校からも來て呉れと云ふことでありましたが、私はいろ〳〵都合で山口の方に行くことになりました。それは私の恩師で教育學を教へて呉れられたドクトル、ハウスクネビットと云ふ先生は豫ねて山口の高等中學校をドイツのギムナジユーム通り八年制の中等學校にしやうと云ふ譯で、私を推薦されたのです。このハウスクネビット先生は、曩きに品川子爵が全權公使としてベルリンに駐劄せられた時、それまで日本の大學には英國人や米國人の先生が多かつた。所が丁度伊藤公が內閣を組織され、學校もドイツ風にやらうと云ふことになつて、ドイツから先生を招ぶことゝなり、向ふの文部大臣フオン・ゴスレルと云ふ人に品川子爵が相談された。その時ゴスレルはハウスクネビット先生を紹介され、先生は東京帝大に教授する旁ら、山口の高等學校の制度改革に盡力されることになつたのです。その時私が丁度大學を卒業したので、山口の方に行つて先生の方針に依つて實行することになつた次第で、ハウスクネビット先生は任期滿ちて歸國の際品川子爵へ「どうか谷本を視ること、私を視られるが如くして呉れ」と云ふ丁寧の紹介狀を下さつたので、その爲に私は山口でも固より非常に優遇されました。これが私が山口高等學校に奉職した由來であります。

（三）

斯樣に申しますと、そんなら定めし山口ではさぞ御立派なことをなさつたであらうと言はれるかも知りませぬが、私が山口に居りましたのは三年ばかりで、その時に大騷動が起つたのです。この節はあまりありませんだらうが當時は各方面の學校にストライキが流行つたのです。あれは確に流行物です。で山口の高等中學校にも亦大ストライキが起つた。私はいつも決してモジ〳〵蠢動は致しませぬ。由來機を見るに敏なる男ですから、斷然責を負ふて職を辭しました。私はさう云ふ点は決して愚圖々々しては居りませぬ。京都帝國大學を馘れた時なども、もう一生二度と誓つて官祿は食みませぬ、文部大臣が何と言はうが、却つて自分の方から位勳を返上申すと言ひ出した男です。併し騷動後品川先生からは却つて前より益々大事にして下さつた。學校騷動を起して叱られると思つたところが、却つて大變大事にして呉れたので、いよ〳〵有難く思ひました。こゝに居られる住友銀行支店長の津田さんも山口高等學校を出られたのですが、それは固より大分時代が違ひます。

私が三年間居つて卒業させた者も相當澤山あります。その中には偉い者も隨分出て居ります。そんならどう云ふ人物が出て居るかと言ふと、役人の方では先づ今の樞密院顧問、元臺灣總督をして居つた上山滿之進君、これが生存者では年順で一番出世してゐます。尤も樞密院と云ふ所は元來年寄が多く、あれでずつと年少の方ださうですが呆れます、六十八才です。住友銀行で、今何と云ふ名前になつて居りますか、吉田眞一君なども上山君と同期ですが、上山君は一番、吉田君は二番で、兩君孰れも一部といつて法文科ですが、本莊熊次郎君も亦同じ頃一年前で二部の理工科でした。その次にありますのが、これは私は少々天狗ですが、今の內大臣湯淺倉平君、これは近頃宮內大臣か

ら内大臣となつた。これまで内閣に變動が起ると、第一番に西園寺さんに御下問になり、内大臣が御使に行つたのださうですが、此度は西園寺公は年を取つたと思召されたのかどうか存じませぬが、内大臣の湯淺倉平に御諮詢になつた。内大臣は恐縮して西園寺公の所へ參り、やがて今の立派な内閣が出來たと云ふ話を聞いた時、私の舊弟子が斯かる大任に膺つたのかと實に嬉しくて泣いたのです。かう言ふと先生はいゝ加減なことを言ふと云はれるかも知りませぬが、一番日本で大きな雜誌――尤も學術雜誌とは違ひますよ、又「中央公論」と云ふ樣なものでもありませぬ。併し一番大きい雜誌といへば、誰が云つても「**キング**」です。その「**キング**」の名前は二月號ですが實は昨年一月に出たものに寫眞が出て居ます。恩師谷本博士として私は偉さうに、その前に湯淺君はおとなし相にして居られます。尤も實はあれは寫眞屋が巧みに合はせて拵へたので芦屋と東京と兩方で寫して寄合はせたので至極便利に出來て居ります。初め大阪の寫眞屋が助手を連れて芦屋に來ましたが、私の家は借家で、光線も具合が惡るいので、隣の竹内氏の家で寫したのです。竹内氏は商工次官竹内可吉君の親父です。何しろ幾百萬圓の大金持の應接室で私が偉さうにして居る所を寫して、それに湯淺君の寫眞を後からくつ附けたのです。上の文言は宮内大臣湯淺倉平と署名して書いてゐます。そこで這の湯淺倉平がどう云ふ人であるかと云ふ事を少々申上げさせて頂くことは光榮に思ひます。

君は今から數年前大阪に來られたことがあります。會計檢査院長時代でありましたらう。一晩「大阪毎日新聞社」の方で大臣級の相當な人五、六人を呼んで門野かで晩餐を饗したことがありましたが、その時私は同社の顧問をして居つたので、接待かねて出席したのです。ところで湯淺君は獨

り座蒲團を敷いて居らないのを見て、亭主側から頻りに勸めますが「先生の前では蒲團は敷かぬ」と言ふので、私は「馬鹿なことを言へ、今日は御客さんでないか」と申しましたところが「先生の御許しによつて蒲團を敷かせて頂きます」と申されました。私はこの一言に實に感服致しました。その前も岡山縣の知事をして居られた時のことですが、これも右の雜誌に一寸湯淺君自身でも書いて居りますが、或る時岡山へ行つたので、一度會ひたいと思つて、宿の者に知事官邸に電話をかけさせ都合のよい時に尋ねやうと打合さうとしました。所が宿の女が驚いて「知事さんが電話口に出られました」と言ふ。そこで自分も出て「僕谷本だ！」「私は湯淺です。先生どうかしなさつたのですか？先生の方から生徒を尋ねて來ると云ふ法がありますか？平生から師弟の道を尊べと云はれる先生がこれは何事です？」と言はれる。「いや、ここは宿屋で來客が多い、かう云ふ所へ知事が來ると皆が煙たがるから、自分の方から出やうといふのぢや」。「さう云ふことなら、何時でも御都合のよろしい時にお出で下さい。又何處へでも出て來いと言はれたらすぐ參ります」と云ふ返事で、乃ち翌朝九時頃に行つて會つたことがありましたが、この話を大阪の實業界の某名士に致しますと「先生は實によい御弟子をお持ちになりますなア、恐れながら只今現に君側にさう云ふ正しい人が居られましたら、畏くも皇室の御爲め、又國家の爲め洵に御同慶に存ずることであります」と云つて呉れましたが、事實その通りであります。かう云ふ譯で私は山口には僅か三年しか居りませなんだが、上山君と云ひ、湯淺君と云ひ洵に立派な人物が出て居ります。

その次には**ドイツ**文學の登張竹風、これはやがてその大學生時代には一時自宅の玄關番でありま

した。今度出來た君の新著の「大獨日辭典」の跋文には六十才の今日になるまで先生に尻を拭つて貰つてゐるなどと委しく書いてあります。登張君が一番で、二番は、故法學博士江木翼君。その次は貴族院議員法學博士岩田宙造君、この人は初めから役人はせんと言つて居りましたが、卒業すると直ぐ北海道の金持の家へ養子に行つて、順々出世した。去年私の古稀の祝賀會にも態々やつて來て、山口時代にはよく先生から睨まれて、恐かつたものですなどと、昔話をしましたが、その外には先頃迄農林大臣をして居つた島田俊雄君、これは一番下の級で、教へたことは少ししかなかつた。とにかく私は金には緣のない男ですが、人を育てると云ふ上に於ては、憚りながら聊か日本精神の發揚に寄與して居ると思ひますが、本日のお話はこれからであります。

（四）

偖此處は御承知の通り尊攘堂の跡であります。尊攘堂は只今は申すまでもなく京都帝國大學の構内に移轉して居りますが、これが品川先生の御創建になつたものだと思ふと、私は實に嬉しく溜まらないのです。それならば又何の因緣で、品川先生は尊攘堂を建てられたのかと申しますと、これは御承知でもありませうが、全く吉田松蔭先生の意思を繼がれたのであります。吉田松蔭先生は、苟くも日本精神を語る程の者なら、何人もこれを日本精神の權化と看ないものはなからうと想ひます。これはどう云ふ方面から見ても間違のない話で、私は昨今は大分記憶が衰へて居りますが、それでもまだ普通の人よりよろしい樣だから、大演說などでも草稿は用ひませんが、決してでたらめは申しませぬ。豫じめ勉强して、覺えて置かうと思へば幾らでも覺えてゐられます。話をしながら人

の顏を見て居れば、何ぼでも出て來ます。頗ぶる不思議の腦髓だといふことで、死んだら解剖して宜しいと夙に約束してあります。そこで鹿兒島、山口、高知、佐賀、この四藩は薩長土肥といつてそれ〴〵偉い人が隨分出て居ります樣だが、何と言つても私は松蔭先生が第一だ、これは確かに日本精神の權化であると思ひます。その松蔭先生が江戸の獄中に居られた時に、入江杉藏と云ふ人に遣られた手紙があります。これにありますが、由來西洋人などは私の講演を聞いて往々貴方の講演は手品師の樣だ、途中で色々取出して見せると言ひましたが、今日もこんなものを持つて來ました。こんな小さい物です。これは岩波文庫の松蔭先生の手紙を集めた物ですが、皆樣を偉さうに威す積りならば幾らでも大きい物を持つて來る、固よりあんた方を書物で威かす積りではない。この本は御覽の通り、小さい、値も僅か四十錢そこらです。けれどもこの「吉田松蔭書簡集」と云ふ本はよい本です。どうか諸君もお暇があつたらばこれをお讀みになることをお勸め申します。この本の中に安政六年十月廿日に萩の入江杉藏と云ふ人に、江戸の獄中から松蔭先生の送られた手紙があります その中に尊攘堂のことがありますが、それは實に有難いものであります、一寸初の方を讀んで見ます。

「兼て御相談申置候尊攘堂の事、僕は彌々念を絕候、此上は足下兄弟の內一人は是非僕が志致成就被吳候事と賴母敷存候云々」

かう云ふ因緣であります。それでありますから驕て品川子爵は入江杉藏さんの弟さんの野村和作（後ち子爵靖）と相談されて、明治二十年に此處に立派に尊攘堂を建てられたのでありますが、計ら

ずも又今日のこの集りが尊攘堂創建五十周年の夕に當ると云ふことは、松蔭先生も品川先生も定めし草葉の蔭で喜んでゐて下さることゝ想ひます。斯んな次第で尊攘堂は出來たのでありますが、諸君も御承知でありませうが、更らにその尊攘堂は其の後明治三十年に至つて京都帝國大學の方へ持つて參りました。これは品川子爵なり野村子爵なり松蔭先生の御弟子と關係の方で委員が出來、取り計つたので、山本悌次郎君など格別品川先生の世話になつた金持が、何萬圓か出してやがて移轉が出來たのださうであります。

（五）

併しそれはそれとして、然らば又尊攘堂の前は此處に何かあつたか？ と云ふ問題が起つて來ます。申す迄もなく此處は昔源三位頼政卿の屋敷跡であると云ふことになつて居ることは、皆樣も御承知の通りで、現に當所の庭には頼政の廟があり、又その奥さんですか、御氣に入ですか、龍姫菖蒲前も合せて祀つてあるし、兎に角此處は源三位頼政の屋敷跡と云ふことになつてゐます。併し果してそれは本當ですかと尋ねられると一寸困る。そこで私は源三位頼政の屋敷と云ふものを一番文獻に據つて調べて見ました。勿論それを調べるには幸ひに京都大學を控えて居りますから、便利ですが生憎時間が許しませんので、私は先づ座右の「平安通誌」を見ました。これは先年桓武天皇平安奠都千百年記念事業としてこれを作ることゝなり、京都の舊家として今も尊敬されて居ります故内貴甚三郎君を代表者とする編纂部が設けられ、總卷數六十卷と云ふ大部の物が出來たのでありますが、その第四十七卷舊跡誌の中に頼政の事があります。それを見るとこゝ高倉の錦に頼政の家

があつたと云ふことは載つて居りませぬが、頼政の屋敷として二ケ所載つてゐます。話が一寸込み入つてむつかしくなりますが、一つは京極の西、春日の南、大炊御門の北に在つて、やがて召上げられて大宮御所となつたことは「頼政家集」の和歌でも知れます。併し斯んなに京極の西、春日の南大炊御門の北と云つたゞけでは一寸見當が急につきますまい。春日は今の春日通で、丸太町の北の通、それから大炊御門は只今の二條、京極は寺町通だとして考へて見ますと、少し川の方によりますが、土手町竹屋町の邊で、木戸孝允公の舊邸からしてずつと西に當るやうです、這の舊邸といふのは長くも　明治天皇が木戸公の病をその枕頭に御慰問遊されたと云ふ有難い所であります。それから又第二は後ちに近衛河原の方に移つて居られたらしく、此處も加茂川ぶちで、今の府立醫科大學病院の近所と想つたらば間違ないと思ふ。それからこゝ高倉錦の北の方へは更らにその後ちに移轉されたものだと見て宜しからう。それは「平安通誌」には載つて居りませぬ。とにかく人は貧乏だと引越を頻りに致しますやうで、頼政も三度やつて居られます。併し三度目のこのところは至極よい所です。頼政がやがて擧兵致しました時に皇族をお一方戴いて居ます。それはどうしてもさうしなければ事がうまく運ばなかつたので、そこで以仁王を奉じたのでありますが、以仁王は俗に高倉宮と申し、又三條宮とも申して高倉の三條附近に居られたのです、即ち今の郵便局のある邊だと見ますと、頼政は此處に居つて朝夕散歩の序にでも行つて御相談申上げることも出來たと云ふことになる。そこで話の辻褄がぴつたり合つて參りますから、私は非常に嬉しく思ひます。尚ほ郵便局は維新前は曇華院宮のあつたところです。諸君はおえらいから御自分で郵便などお出しにお出でにな

ちぬかと思ふが、昨今は又愛國郵便でもお出しになり、郵便局へ行かれたら、以仁王と頼政との關係を思出されやうし從つて郵便局の値打も自から上ると云ふ譯です。文獻の上に於ても「平安通誌」でもその事は明瞭になつて居りますから有り難い。

（六）

さて然らば又此處は明治維新前はどう云ふことになつて居つたかと云ふ問題が出て參りませう。さうです御一新までは、今で申せば侍醫、典藥頭の三角と云ふ人が住んで居つたやうです。これが又いろ〳〵お話の種になります。先づ第一にその三角氏は今どうなつて居るかと云ふことを、先刻あちらの控所で、服部君から詳しく承つて私は暗涙を催しました。洵によいことを聞かせて頂きましたが、それはそれとして這の三角典藥頭と云ふ人は、文獻の上に於ては三角良敬、號を滄洲と云つた人で登壽院の稱號を賜はり法印に叙せられ、文政七年に六十六才で死んで居る人の事らしい。さう考へて見ると大体見當がつきます。それに就いて又私はかう云ふことを聞いてゐます。或は諸君も御承知かも知りませぬが、抑々品川先生が最初此處に尊攘堂を建てられたことに就いて最もよく一切の顚末を承知して居る人がある。それは私の親友で年も略ぼ同じで、今井太郎衛門と云ふ人の事であります。これは十年程前に亡くなられましたが、曾てその人の話に、あの尊攘堂の所は實は長州の志士がよく集つて相談をしてゐた所だと云ふのであります。

今井家は素、長州藩の藏屋敷預りの御用達の頭で、屋敷も昔は矢張りこの近所の高倉竹屋町下ルにありましたが、維新の兵火に燒けて、只今は御池河原町の角、市役所の前にあります。そしてあ

すこには今でもありますが夙に邸内に古聖堂と云ふものを拵へ、私は今から二十數年前にその古聖堂記と云ふものを今井君から頼まれて作つて、「讀賣新聞」の日曜附錄に載せたことがあります。これから話が一寸混雜しますが、私はその今井君の家の古聖堂で尊攘堂の建つた時の話を聞いたと云ふことを想ひ出しました。私は決してでたらめは言はない、又人の言ふことを濫りに孫引は致しませぬ。これで獨創のある、大學者の積りです。從つて一夕の講演でもよい加減なことは申さない。その今井君の夫人は只今も健在です。中々賢夫人です。實は今日も案内しやうと思ひましたが、夜分でもあり、婦人のことでもあるので、差控えて案内致しませんでしたが、私は今度尊攘堂の話をするに就いて、佛様を拜まして呉れと訪ねて、いろ〳〵質問したのですが、結局そのことはよく聞いて居らない。主人が存命でしたら詳しく申上げられますのにと、非常に殘念がられた。そこで頻りに引止められるのを六時前でしたが、これから一乘寺に行くと言つて、此處に今夕同伴して參つた紳士の家を尋ねたのであります。一寸御紹介しますがこのお人は金子君と申されます。金子で諸君の御商賣に近い、手形交換所に緣のあるキンスと書くのです。名前は正道で、正直は實に商業取引の極意であり、即ち這の金子正道君は全く銀行集會所の御本尊にして好からう。(大笑)このお人は先年まで京都帝國大學圖書館の司書をして居られましたが、尊攘堂のことは事實帝大でも、圖書館の方で預つて居られるから、やがては金子君が主としてやつて居られたのだと云つても差支ありますまい。そこで今井の奥さんに自動車を呼んで貰つて、乘込んで行つたところが、取次に息子さんが出て來られたので、品川先生の事に就いてお尋ねに上つたと云ふことで、すぐ通されて、懇談の間に色々

なことが分つたので大いに嬉しく、種々御馳走になり、十一時過お別れ致しましたが、併し今の問題は金子さんの所でも十分解決は出來なかつた樣であります。今夕は特にお招きして御同伴したのです。

とにかく普通にミスミと云ふ姓は三隅と書いて三角とは書きませぬ。この三隅と云ふ姓は島根縣は石見の國に地名があり、古城址であり、鎌倉時代から豪族であるとすると三角と書くのは多分途中で字だけ變つたものと見へる。石州と長州とは由來一つで或はこの三角典藥頭も亦恐らく長州に最も親しい因緣があり、此處で長州人が寄合つたと今井君が話されたことがぴつたり合ふと思ひます。その時長州屋敷は只今京都ホテルのある所に在つたので、今井家がやがてそこに下居したのも亦多少關係があつたかも知れません。

（七）

これで、この尊攘堂の土地の沿革は分りましたらうから、話を元に戻して、尊攘とは何ぞ？日本精神とは何ぞ？と云ふ愈々肝腎の本題に移つて申上げて見たいと思ひます。それにしても一體右の源三位頼政と云ふ人は妙な人です。頼政の人格などを委しくお話すると長くなりますが頼政は素より武人です。而して又歌人です。その奥方を菖蒲前といふが菖蒲前といふ人の存在如何はほんまは怪しいものです。但し文獻には菖蒲前と云ふ者は勿論あつて、私はそれについても四五時間位の講義は出來ますが、何ぼ服部さんに頼まれたとて、夜二時、三時まで菖蒲前の話などしては諸君に御迷惑と思ふから、今夕はそれは止めて措きますが、頼政と云ふ人は妙な人です。元來私は何人でも

性格の明瞭なのが好きです。自分自身でも斷然位動を返上すると申し出た位ですから、何でもきつぱり遣るのが好きです。所がこの頼政と云ふ人はグニヤ〳〵した人ですね、言はゞ如何にも氣の毒な人です。早くからどうかして昇殿したいと念じて居つたが、五位になつたら昇殿を許されるとして、中々その五位にして呉れない。今なら五位ぐらい何んでもない樣で、大學などでは高等官を十年もして、三等になつたら從五位をくれるに極つて居る。私は戯れにこれを心太（トコロテン）と言つて居りました。猫も杓子も心太式に昇つて行けるのです。併し頼政の時代には心太式に行けなかつたと見えて、そこで昇殿したいが昇殿することが出來ない。年六十三才にして初めて正五位下にして貰つてやつと昇殿を許された。今の大學教授なら六十一になれば、出來ても出來なくても退引して名譽教授となるから、位は正四位早く任官した人は從三位、正三位と云ふ者も珍らしくない、頼政が聞いたらびつくりするでせうが、頼政も七十四になつてやつと從三位になつた。而してそれは又面白いことには、家の敵とも言ふべき平清盛の推薦でなつたのです。私は何も清盛を最負にする譯ではありませぬが、清盛は萬事頼政よりはずんと出來て居る。段違であります。それからやがて頼政はとうとう謀叛したのであるが、時は七十七才です。戰爭に負けて宇治に落延び、とう〳〵腹を切つて仕舞つた。七十七で謀叛を起し、遂にあゝ云ふ最後になつたと云ふことは、私は宇治に行く毎に、あの扇の芝の所で同情の涙を催しますが、同情すると云ふことは固より必ずしも偉いと云ふ証據にはならぬ。一方の以仁王も、これは後白川法皇の第二の皇子にまします樣でありますけれども、或る書物にはその貴寵ならざるを以てと書いてあるが、後白川法皇と云ふお方は非常に英雄であらせられ

た、そうして澤山の后妃があらせられたのでせう。さう云ふ關係から以仁王を余り可愛がられなかつたと見へる、それで以仁王は年三十にしてまだ親王になれない。そこで不平滿々、遂に頼政と意氣投合して謀叛を遊ばされた。併しそれは結局失敗に歸した。何んで失敗したか、これは色々原因がありませうが、それも頼政と云ふ人物を研究して見る必要がある。それには先づ「大日本史」の列傳に據つて見るのが捷徑である。尤「大日本史」にも無論好い場所と惡い場所とがあることは免かれず注意を要しますが、私は今度このお話をするにつけて何か新進の學者で頼政を研究した者がある筈と思つていろ〳〵搜索して看ました。偶々龍谷大學の僚友であり忘年の益友である國史專門家の文學士魚住惣五郎君に出逢つて何か君の書いたものはないかと尋ねて見ましたが、私には無いけれども故三浦周行博士の「以仁王と源頼政」と云ふ論文があると云ふことで、わざ〳〵速達便で屆けて呉れたのを讀んで研究致しました。三浦君の著述は隨分多いが、それは「歴史と傳記」と云ふ大正五年頃に編纂出版されたものに載つてゐます。諸君もお讀みになつたらよからうと思ひます。頼政の失敗した理由も明瞭に書いてあります。

抑々頼政の失敗した理由を一言に纒めますと、大寺に頼り過ぎた爲であるといへる。當時の大寺といへば、三井の園城寺、比叡山延暦寺、或は南都興福寺等で、それ等が互に勢力を張り合つて、恰も今日の政黨の如く對峙してゐた。而して始終喧嘩をして居る。さう云ふ狀態の所へ、頼政は初め三井寺へ持込んだので、それで叡山は旋毛を曲げて援けない。そこで南都に援を請ふたが、その方も失敗した。聖德太子の憲法にも和を以て貴しと爲すとありますが、どうも頼政はそれを知らな

かつたといへる。

それにしても一體頼政は何の爲に謀叛をしたかと云ふことになると輕々看過が出來ない。それは恰も右の以仁王の令旨が「東鑑」に載つて居るのを見ると分かる。今は一々申しませんが、要点は「逆逆皇室、破滅佛法」と云ふ八字に盡きて居る。その外には民百姓の爲を思ふと云ふ樣なことは少しもありませぬ。勿論金融をよくすると云ふ樣なことも言つてありませぬ（大笑）どえらい**イデオロギー**なんて少しもない。併し平氏が皇室に違逆すると云ふこの違逆皇室の四字を高調する？即ち日本精神の發露であると思ふ。佛法破滅の罪と云ふことも擧げて居りますが、前首相林銑十郎大將も誰からか敎へて貰つて頻りに祭政一致など言つて居りましたが、あんな調子だと排佛棄釋もやりかねないと心配してゐたところ、天罰は覿面でした。明治維新の時も排佛棄釋で大騒をしたが、結局失敗して居ます。林大將なども固より軍務の事は精しいでせうが、思想問題の方は少々お門違でありましたらう。私はこの前もどこかで大聲叱呼したが、佛法では唯佛與佛と云ふ言葉がある。凡夫は默つて居るが好いと言つたらば、聽衆は盛んに拍手した。否、佛法の方は暫く別として、この皇室に違逆するのを詰責すると云ふのは確かに日本精神であります。そこに頼政も亦蔑視されないところがあるといはゞいへる。

（八）

大層玄關が長かつたやうですが、これでやつとお話がお座敷に入つたので、これから日本精神とは何ぞやと云ふことを少々系統立てゝお話しませう。後で御馳走で出る相ですから、千松ぢやない

がお腹がへつてもひもじうないと辛抱されるのも亦日本精神でせう。（大笑）偖て日本精神とは何であるか？ 簡單にいへばそれは大和魂の事である。 さて然らば大和魂とは何であるか？尊王攘夷に外ならぬと思ふ。それ故に這の尊攘堂と云ふ名前はやがて日本精神を現はしたものだとなつて來るのである。尤も大和魂には和魂（ニギミタマ）、荒魂（アラミタマ）と二つに分けて申すことがあります。和は平和で、平和な魂が和魂、諸君の如きはおとなしくて和魂です。荒魂は**エイヤツ**と云ふ氣の荒い方です。私など一寸見ると優しい樣だが、向ふに無禮なことがあれば、貴樣何んじやと大喝すると云ふ樣なことがあるそれは荒魂でありませう。平素手紙なども大概自分で書きます。女に當てた手紙など書かせたらそれはなか〳〵うまいものです、それが和魂です。その代り論文を書かせたら荒魂です。そこで日本の神樣には必ず二通ある。 もつたいないが、 伊勢五十鈴川のほとりに鎭座まします皇大神宮は天照大神の和魂にましますので、 荒魂は何處に居られるか？ それは阪神間西ノ宮市の北の方なる廣田神社、官幣大社廣田神社、あれが天照大神の荒魂にましますのであります。住吉神社でも堺のは和魂、荒魂は長州一之宮に在す。そこで尊王攘夷と云ふのは日本精神であり大和魂であるが、そこに和と荒と二つを一緒に併せ示したものであります。尤もこれは日本語ではない。何んでも皆昔から日本にある樣に言ふ者もあるが、そんな譯のものではない。これなども亦全く支那の書物から出た言葉で、日本に於ては大昔は余り言はなかつた樣ですが、德川幕府の末頃から志士が頻りに尊攘と云ふことを合言葉に使ひ出した。乃ち日本で廣く使はれる樣になつてから長くて百五十年、本は漢籍にあるのであります。偉さうに言つても大概の熟語などは他から入つて來て居る。それは「論語」

の憲問第十四から來てゐるので、そこの本文に 一匡ニ天下一 と云ふ一句があり、その下に朱子の註がありますが、匡ハ正ナリ、周室ヲ尊ンデ夷狄ヲ攘フ、皆天下ヲ正ス所以也、とある。これが最初の出典でありませうが、尊王攘夷の尊王と云ふことは申すまでもなく、國體を明徵にするのですから、疑義はありませぬ。あの**イデオロギー**の無い賴政さへ皇室に違逆すると云ふことを高調して居る程です。併し一方の夷狄を攘ふと云ふ方は一寸困る。これは國防に違ないが、それは限りがない事で、第一金が余計にかゝるから、精出してあなた方も十分金を融通するやうにして下さい。併し國防のことは私は門外漢だから態と申しませぬ。只々國防を層一層强固にして、金甌無缺の皇室を護ることに誰も努力しなければならぬと絶叫致したい。

（九）

偖て又「論語」には攘夷と云ふことを「管仲微りせば吾それ被髪左衽せむ」と書いてある。被髪、は**カヅラ**ではない、我々から見れば散髪するのが被髪です。左衽は左前の服ですから洋服は左衽です。現に我々は皆被髪左衽して居ます。私は親が早う死んだから、明治五年に六歲で家督相續をしました。當時はまだ刀をさして歩いてゐたが、背が低いので刀の端が地面にすれて困つた。私の祖母は後家さんで茶筅に結ふて居つたやうだが、それを切る切らんで問題が起つた。被髪は夷狄の風だからしないと言ふのです。さう云ふ論法から行くと服部君に申上げるが、この銀行集會所なども いはゆる洋館で夷狄の家など拵へては困る、茅葺でなければならぬ。自動車なんかも困る、牛車に乘つて歩かなければならぬ。と云つて見たところがさう云ふ攘夷論は固より行はれさうにない。否、今

日の時勢ではどうしても廣く智識を世界に求め、舊來の陋習を破ると云ふことでなければならぬ。國民一般がこの明治天皇の大御心を奉戴し眷々服膺したからこそ、僅々七十年と云ふ間に斯の如く立派な國になつたことを思はなければならぬ。私が小學校にゐた時代は、無論教育勅語は未だありませぬ。遠足の道中などで先生が御誓文と言ふと、私が先頭になつて「廣ク會議ヲ興シ」と言ふ、すると皆が一同それについて「萬機公論ニ決スベシ」と言ふ調子で、その他又歴代の天皇の御名前や年號をば暗誦して順々に高唱して相和すると云ふ遣り方でしたが、私は早くからこの五箇條の御誓文をば教育勅語と共にやれと云ふことをずつと主張して居ります。又御歴代名や年號を知ると云ふことも、皇室尊重の精神を深める譯で矢張り尊王であります、日本精神であり大和魂であります。私は電車に乘つて大津に行く時、平安神宮の前や山科の御陵の前を通る際は、**パチ〳〵**拍手を打つたりすれば人が氣違かと思ふから、そんなことはしませぬが必ず丁寧に御拜をする。先日も一人の眞宗の中老の坊さんと乘合せたが、平安神宮や山陵の前では平氣で居つて、山科の御坊の前に來ると御數珠を出して頻りに拜んでゐた。私も眞宗ですが、何故先づ桓武天皇に御禮をせぬのか、天智天皇に御拜をしないのかと咎めたかつた。私は大阪へ電車で行く場合には先づ伏見の稻荷さん、これは今日は申しませんが一寸えたいの分らん神樣です、併し兎に角今は朝廷から官幣大社として祀られて居るから、理屈はさて措いて丁寧に御禮する。更に進んで桃山御陵、これは申すまでもありませぬ。それから八幡の八幡さん、これも官幣大社で、祭神は申す迄もなく應仁天皇、かう云ふ風に順に行きますと、その次は香里の不動さん、成田の不動さんです。「先生は今眞宗だと言はれたの

に「不動さんとはおかしいと云はれる」かも知れぬが、話せば長くなるから申しませんが、ほんとに私は又不動さんとも淺からざる御因緣があります。それから今度は守口に行くと、明治天皇の行在所の跡がある。明治元年の春、京都から御親征と云ふ名前で大阪へ行幸になつた。今なら京都と大阪との間は一時間そこらで行けますが、當時は行幸の御道中などは日に四里か五里行かれるのが關の山な樣で、京都を朝出られて、鳥羽で御休になり、その晩は八幡で御一泊。翌日は又守口で御一泊になつた。この守口の行在所難、宗寺の事に就いては、數年前そこで詳しく述べたこともありますが、話が長くなるから今日は申しませんが、とにかく、さう云ふ所では私は一々御禮する、これも矢張り尊王攘夷です。舊來の陋習を破ると云ふことは固より大いにやりますが、尊攘と云ふことを忘れない。否、廣く言へば、凡そ攘夷と云ふことが內外を問はず陋習を拂ふと云ふことでありませう。

（十）

諸君！　斯う云ふことを云ふと、困るのは直ぐ佛法など棄てゝ了へなどいふ暴論の出ることであります。私は龍谷大學に三十年餘も關係して居るからと云つて言ふのでないが、よく戯れに「命を延ばしたいから佛法を尊むのですか？命を延したいなら弘法大師より私を拜みなさい！大師は六十二才で入定、私は七十一才で**ピン〳〵**してゐます。何ぼ名僧に御祈禱して貰つても別に壽命が延びる譯のものではあるまい。私共の宗教と云ふのは固よりそんなものではないのです。さうなると吉田松蔭先生なども少々怪しくなるが、私は明治十七年頃に品川先生から、昔、松蔭先生が御妹子

に宛てられた手紙を印刷局で石版刷の一冊にしたものを貰つて、讀みましたが、この本「吉田松蔭書簡集」にも載つて居ります。安政六年四月十三日妹千代宛と云ふのがそれです。それには「あなたは「觀音經」を讀めと言ふが、私はさう云ふことはやらぬ。觀音力を念ずれば首の坐へ直り刀で切られんとする時でも、刀が段々壞とちんじに折れ、何時までも壽命があるから「觀音經」を信ぜよと言はれる。併し自分の考では、偉いことをすれば何時までも名が殘る。それが何時までも生きると云ふことだ。楠正成や大石良雄と云ふ樣な人は、忠義を盡して名が後世に殘つて居るので、それが「觀音經」の通である。改めて念彼觀音力の必要はない」といふ風に書いてあります。

わが品川先生も亦素より念佛宗です。私は二月二十六日御命日に、東山の靈山のお墓に參拜致しますが、お墓の字面を見ると、日孜と云ふ戒名がある。初めは私は不思義に思つた。先生は念佛宗であつて、日蓮宗でないのに、日と云ふ字を使つて居られるのは妙だと思つて、先生の傳記を讀んで見ますと、吉田松蔭先生が、日に日に孜々と勤めて怠らずと云ふことを云つて居る、それから取られたさうです。とにかく先生は早く已でに眞宗の奥義に達して居られたやうで、或る時私は聞いて見た。「先生！」私は閣下とは或る特別の場合の外にはめつたに言はぬ。閣下なんて言ふとすぐ**ドイツ**語の**カツケ** Kacke **カツカー** Kacker と云ふ俗語を想ひ出すから、嫌なのである。曾て彼國で或る留學生が**ドクトル**になつて、送別會か何かの時に、强ゐられて日本語で卓上演說をやつた。然り、日本語でやツたのですが「本夕は總長閣下、敎授閣下」と言ひ出すと、皆がくつ〳〵笑ふ。後で聞くと、演說は日本語で解らないが、たゞ**カツカー**、**カツカー**と十二三遍も言つたので、をかしくて堪

らぬ。**カツケー**は糞、**カツカー**は糞垂れと云ふことです。晩餐會の座上で「本日は大學總長糞たれ敎授の糞たれ」では何が何でもをかしいと大笑ひの笑話がある。(大笑)私は恩師品川先生を糞垂れなんて言ひ度くないから、いつも先生とか、あなたとか言つた。ところで「先生あんた何んで念佛を言はれるのですか？」と聞いたことがあります。すると「君、あれは死んだ者と交通するんだ」と云はれた。乃ち品川先生は、死んだ者、幽靈と「今日はよいお天氣で」と挨拶する代りに、南無阿彌陀佛と言はれた。これではどうもお話にならぬ。それはそれとして憚りながら私も本願寺の學校に三十年餘りも敎へて居るから、經文のことは多少知つて居ます。「大無量壽經」下卷に佛の遊履する所、國邑丘聚化を蒙らざるは靡し、佛のあるく所は、天下大平、五穀豊穰、兵戈無用といふ風に見えてゐる。勿論本當に佛法の行はれる所には大風など吹かんかと云つたとて、そんな事はない。否、大風が吹いたら堂々たる大明神さんの樹木でも何んでも倒れて仕舞ふではないか。併しこれはそんなことを云ふのではない。佛所遊履とは我々が本當に佛の修行が出來たら、皆阿彌陀如來に成る勿論金色ではない。金色はそれは黃疸病と間違はれる恐れがある。(大笑)凡そこの「大無量壽經」下卷の佛所、遊履と云ふ二十何字の句程、人間協同生活の理想を現はしたものはない。只南無阿彌陀佛を唱へたら死んでも命のあると考へたら大間違、その点は松蔭先生も品川先生もまだ少しどうかと思ひますが、それは兎に角、私はかう思ふのであります。これからは人皆皇室を尊崇し、明治維新の御誓文の通り、長所を取り短所を捨てゝ行く、それが廣義の尊王攘夷です。所が文部當局など往々認識不足で困る。この間も或る督學官の演說を聞くと、聖德太子はお偉い方だ、十七條憲法も

結構だ、けれども佛法崇信は惡いと云つたと新聞に見えてゐた。併し聖德太子の十七條憲法から佛法を拔いたらどうなります？聖德太子から佛法を拔いたら天王寺はどうする？法隆寺はどうするのです？、今後の宗教々育は正しい宗教を信じ、佛遊履する所の世界を現出する、さう云ふ方針でやればよい。

（十一）

失敬ながら私は茲でかう云ふものを出します。こんな薄い一冊子です。表紙には仁木彈正か明智光秀の樣な繪が描いてある。後には十字架が描いてある。諸君、私は實は色々道樂があります。歌舞伎にも行く、文樂にも行く、唄も踊も少々心得て居ります。本當の學者ならそれ位のことはやらなならぬ。但し曾て**フランス**に居た時に毎度踊れと云はれて困つた、外國人と**ダンス**だけは身長の關係で眞つ平御免です。何しろ這の表紙は一寸分かり惡いが、所で又この本などは、おそらくまだ帝國大學にも來て居りませぬだらう。私は失敬ながら一面は又頗ぶる眞面目の方で、この年になつても勉强は止めませぬ。只古いものだけ、尊王の方だけをやるのでない、新しい本も大いに讀む。この本は今から十日程前**ドイツ**から五六冊到着した中の一つですが、私は七十二になるが常に新しい本を讀むと云ふ点では、憚りながら決して人に後れを取らぬ積りです。これは**ベルリン**大學の**ベツク**Beckh と云ふ若い教授の書いた「日本民族と**キリスト**教」Das Japanische Volk und das Christentum といふ本ですが、私はこれを讀んで見て驚いた。たつた三十**ペイジ**ばかりの本ですが、初めの章は日本民族、第二章は、一民族としての日本人、第三章は、日本人と**キリスト**教となつて居る。これ

を讀んで驚いた。といふのは日本精神はこつちより向ふの方がよく知つて居るらしく見えるので、乃ち結論は、凡そ日本人位、民族的に自守の精神に强いものはない、それを稱して大和魂と云ふ。我々**ヨーロツパ**人は最早墮落した民族である。何處へ行つても日本人程愛國心に富んだ民族はない。我々は機械的自由主義、**インダストリユメンタル**、**リベラリズムス**である。只だ自由々々と言ふが、日本人はさうでない。皇室を尊崇し、歴史を尊重し、祖先を崇拜すると云ふことを主として居る。これが大日本帝國の民族精神である。從つて又婦人に對する考も我々とは違ふ。殊に母に對する精神が違ふ。母を尊敬することが深い。さう云ふ所へ耶蘇教を持つて行つても流行るものかと叱り飛ばしてゐるのは痛快至極だ。蓋し耶蘇教と云ふものは**ユニバーザル**な宗教である。**ナショナリズム**とは一致しないから、日本では將來益々神道が繁昌するに違ひない。神道に依つて大和魂と言ふものが益々强化される。而して日本人は如何なる場合でも前に進む國民である。**ドイツ**人は宜しく、これを手本にしなければならぬ。我々の手本は日本人だと大いに褒め擧げて居る。併し諸君はこれで滿足するか知らぬが？私は折角だがどうもこの論には反對であります。矢張り五箇條の御誓文にある樣に、廣く智識を世界に求め、舊來の陋習を破ると言ふ精神を以て眞實の尊王攘夷をやつて行かなければならんと思うて、多年育英を遺つてゐるのであります。

今夕のお話の大體はこれ位で措きますが、私は山口高等學校に居りました時、二階の大講堂に額をかけました。それは菊池容齋が「先賢故實」中にある日本古來の豪傑三十名の肖像でありますが斯くして私は實に夙に山口で尊攘堂の志を實行致しました。これは品川先生からは非常に喜ばれま

したやうで、その肖像畫も品川先生から特に寄贈されたものであり、而して「先師松蔭の眞骨頭を傳ふるものはたゞ老兄あるのみ」と過稱されたのは今尙ほ恐縮に堪へませぬ。松蔭先生の眞骨頭とはやがて日本精神でなくて何でせうか？。

長時間御靜聽下さつて甚だ有難うございました。まだ問題は澤山殘つて居りますが、余り長くなりますからこれで擱きます。若し御質問があれば書面で芦屋の宅の方へ言つて寄越して下さいませ！銀行の事などは固より存じませんが、思想の問題の事なら及ばずながら適宜御答へ致しませう。終りに諸君の御健康と當銀行集會所の隆盛を祝福致します。失敬御免！（拍手）

支那事變の經過と我國際關係

（昭和十二年九月廿一日　於例會）

大阪毎日新聞社東亞通信部長　長岡克曉氏講演

今回の支那事變が單に支那を膺懲すればいゝと云ふだけでありましたならば、日支兩國の國力を比較致しましてさう我國に取りまして重大問題ではないのであります。けれども非常に復雜な今日の國際關係に於きましては、支那を膺懲するだけでも色々國際問題がおこる。さういふやうなことからして、單に日支兩國の國力を比較して此の問題を考へる譯に行きませぬので、實は日本に取りましても非常に難局であります。其の爲でありませうが實は軍機保護法といふものが非常に嚴格に行はれてをります。軍機たる事實を知つて之を探知せんとしたる者は二ケ月とか三ケ月とか刑に處すといふやうな規定が其のまゝ行はれて居るやうな次第であります。私は別に軍機なんかのことをさう知つて居る譯ではございませぬけれども、常識で一向差支ないだらうと考へますことが、能く聞いて見ると成る程軍機に觸れると云ふやうなことが屢々あります爲に、實は折角こちらへ參りましても隨分其の意を盡し得ない所が多々あるだらうと思ひます。此の點前以て御諒承置きをお願ひ致します。

御承知の如く、上海は其の中心が共同租界にあります。最も勢力を占めて居るものは英國であり

ますが、これに次いで日米肩を比べ、其の他の國も夫々關係を有つて居る。其の上海が、上海のうちでも共同租界の一部たる虹口と謂はれて居る地方に日本人が密集して居るのでありますからして非常にうるさい問題を多々含む譯であります。のみならず支那全体として見ましても、**イギリス**は重要な市場として、殊に過去二三年以來は支那の幣制改革には一肌脱いで支那市場の開拓に非常に努めて居る譯であります。爲に上海と云ふ地方が戰禍に卷き込まれなかつたと致しましても英國はそれを簡單には見逃し得ないのであります。

又御承知の如く、世界赤化といふことに一頓挫を來した**ソヴイエト**聯邦なり第三**インターナショナル**は形を變へて、所謂人民戰線の結成といふことに力めてをります爲に、是れ亦支那に重要な役割をなしつゝある譯であります。さういふ譯で國際關係が非常にうるさくなつて居る譯であります。

私が上海へ參りましたのは既に陸軍の一部が黃浦江の下流、揚子江の下流方面に上陸したばかりの時でありましたが、まだ黃浦江の航行といふものは決して安全でありませず、此の九月になつてから多數の戰死者を出しました虬江碼頭、支那側で拵へてをります波止場でありますが、其の附近は日本兵は一兵も行つてゐない。船が入りますと、直ぐに右手、川の流れ方から申しますと左岸でありますが吳淞砲台がある。吳淞砲台は船の上からは見えぬやうになつてをりますが吳淞鎭と云ふ町はよく見える。これが實に木端微塵と申しますか、えらく破壞されて、もうあれだけ破壞された所には敵兵なんか居ないだらうと思うて甲板に私共の外にも多數乘客が出たのでありますが、船員が危い、中々狙つた人には彈は中りませぬけれども大きな船ですからどこかに中る、怪我人が出ま

すからどうぞ引つ込んで下さいといはれて吾々も引つ込んで居ると成程其の破壞された建物の間から小銃を擊つて來るのが少からぬのであります。

そこを少し行きますと、〇〇、〇〇部隊が非常に苦心したのでありまして、川緣に陸軍は上陸はして居るけれども堤から先は一歩も行つてない。さういふ所がかれこれ十町ばかりもありましたでせうか、そこは川幅もさう大して廣くありませぬ爲に顏を知つて居る者でありましたならばお互に話をすることが出來る位に近い所を通りまして、**ハンカチ**を振り、洗濯をして居つた**シヤツ**を向ふも振ると云ふ有樣で挨拶を交した。所が左の方は例の浦東**サイド**でありまして、そこには一萬五六千或は二萬位の敵兵が居る譯で、そこから盛んに迫擊砲、大砲を擊つて來る。吾々の船に向いてもちよい〳〵擊つたやうでありましたが一つも中りはしませぬ。私の乘つた船は長崎丸でありますが上海丸と共に今日上海と內地との重要航路を受持つて居ると云ふ意味に於て相當手厚く保護されて居る。其の船の通る時には左側には〇〇艦が多數あり、ちよつとでも砲聲が聞えたら其の砲聲の起つた所へ向つて大砲を擊ち込むといふやうな姿勢を執つて居りまして、實際私共が川を上つて行きます時にも此の〇〇艦の擊つた彈は十數發になつたらうと思ひます。かうして上海と云ふ所は少くとも最近までは非常な重圍の中にあつた譯であります。僅かに揚子江と黃浦江を以て外界に通じ得るのである。けれども其の黃浦江が安全でないと云ふ次第であります。

もと〳〵日本の特別陸戰隊は租界線を守ると云ふ譯でありますので、どうしても共同租界といふものが策戰關係地になる。これはもう共同租界を策戰關係地にして吳れてはいかぬと列國は頻りに

申しますけれども、もと〳〵租界を守る爲の軍隊なんですから、策戰關係地になるのは事情已を得ない。支那側で申しますならば、敢へて共同租界を攻擊しようとは思はない。けれども共同租界の中が策戰關係地になつて居つては已を得ない。これはもう日本も支那も言ふ所半面の理由を有つて居る譯でありますから列國が如何に上海中立案を提唱しようとこれは已を得ない。さうして國際都市である上海が戰火に包まれてしまつた譯であります。

今日は**ラヂオ**や新聞に非常に多く傳へられて居る個人的軍事美談を別に不必要であるからと云つて略する譯でありませぬけれども、さういふ方面は演題の都合上なるべく避けたいと思ひますが、上海の特別陸戰隊の善戰振だけは簡單にお傳へ申上げたいと思ひます。

問題が起りました時は、我國の兵力は實に〇〇〇名位しか居りませぬでしたが、戰線は三哩餘り敵兵は五萬乃至六萬を以てこれを圍んで居つたのでありまして、支那は租界が策戰關係地になつて居るのであるから、これに砲擊を加へるのは當然であると云ふ、而して支那兵は租界に殺到したならば婦人子供と雖も、苟も日本人である以上は全部鏖にするといふことを屢々廣言して居ります。もと〳〵帝國政府は、上海は現地保護をするのである。かう言つて居つた譯でありますから、どうしてもこれは保護せねばならぬと云ふ關係にありまして、僅か〇〇足らずを以て約二十倍に近い大兵を支へたのであります。吾々も實は心配して居りましたけれども、まあ當時、現地保護をあれだけ公然と約束して居る帝國政府が現地保護を徹底しないといふやうなことはないだらうと思つてそんなに心配しなかつたのでありますが、扨て現地

に行つて聞いて見ますと、其の苦心たるや實に大したものであります。御承知の如く今日の支那の軍隊は昔日の支那の軍隊ではありませぬ。精神的に於きましては日本怨むべし、日本討つべし、日本復讐すべし、二十年間排日教育を受けた人でありまして、而して此の滿洲事變以來特に甚しき抗日意識に燃え立つて居るのでありますから、一兵に至るまで何の爲に戰ふかといふことを知つて居ります。勿論其の何の爲に戰ふかといふことは日本人の目から見まして間違つて居るといふことは事實であります。けれども彼等はそれを間違とは信じない、一つの信仰にさへなつて居るさうであります。尙ほ又物質的方面に於きましても御承知の如く、英、米、**イタリー**、**フランス**あたりから相當立派な武器、飛行機を輸入して持つて居ります。個々の武器に比較して見ましたならば日本に比べて或はそれ以上のいゝ武器を持つて居る部分もあるといはれる程であります。さういふやうに物心兩方面共にすつかり趣を變へて來た支那の軍隊二十倍を以て我が軍を如何とも仕樣ないといふことは畢竟支那の軍も非常に强くなつて居るが、わが特別陸戰隊の全部が超人間的であつたといふことが出來るだらうと思ひます。特に苦心したのは十四日、十五日でありまして、十四日は御承知の如く我軍の飛行機といふものはホンの少しが活動しただけ、もう數十と云ふ敵の飛行機が思ふ樣上海の空を飛んだのであります。陸に於ては二十倍の大兵、空に於ては我が空軍は僅かなもの、これ亦二十倍以上の敵に臨んで來た。現地に於て聞きますと、いやあの時はもう吾々は到底支へ切れぬかも知れぬ、支へ切れなければ全員戰死して國民に詫びねばならぬと云ふ氣持で戰つて居つたといふことであります。尙ほこちらへ歸つてから聞く所によると實際十四、十五、十六、十七日といふもの

は憂慮に堪えなかつたと云つて居る程であります。何故二十倍近い大兵を以てようこれを席捲し得なかつたかといふことは決して支那がこれは共同租界であるから攻撃の手を緩めるとか云ふやうな譯ではなく、強くなつたとは云ひながら支那の軍隊にはまだ／＼大きな缺陷があります。これも物心兩方面に求めることが出來ますが一つは訓練が足らない、立派な飛行機、立派な機關銃を持ちながらこれを使ひこなせないのであります。此の話を私が大阪毎日の本社へ持つて歸つて云つたならば寫眞部員が、よい例を引いて呉れました。それはあなたの寫眞機のやうなものであります。十數年前にお買ひになつた大きな寫眞機を持つてお出でになると立派に撮れてをりますけれども、二三年前にお買ひになつた寫眞機を持つてお出でになると未だ曾て氣の毒な思をせずして燒いたことがない。丁度さういふものでありませう、と言ひましたが、正にさういふものだらうと考へさゝれた。もう一つは最高指揮官と申しますか、高級指揮官と申しますか、これが非常に劣つてをります。一つは最近支那の軍隊は封建的色彩を脱却して、日本のやうに、茲の師團長が今日彼處に轉任して立派に之を指揮し得ると云ふやうに努力しつゝありますけれどもまださうは行つて居りませぬ。自分が長い間養つた師團、其の兵力を失つたらばもう師團長たる資格はなくなると云つてもよい程であります。そこで自分の軍隊を傷けることを欲しない。乃木將軍の旅順攻圍戰において部下に對してあれだけの犧牲を命ぜられて、これを喜んで受け犧牲を敢へて惜まない部下と乃木大將の意氣と、上下の相信頼した氣持とを支那の軍が有つて居りましたら、それはもう上海を席捲することは譯はなかつた筈であります。若し萬々一不幸にして特別陸戰隊全部戰死、虹口一帶席捲されてしまひ、

我が陸戰隊本部が支那軍に占領されるといふやうなことが起つたらば其の結果はどうであつたらうか、考へて見ますと、國際的に支那の暴虐振りは或は列國の反感を買つたかも知れませぬけれども蔣介石の軍隊、支那の軍隊といふものが日本の軍隊に對して劣るものでないと云ふことを列國に印象づけ、國内に於ける蔣介石の聲望といふものはいやが上にも又上つて來ることは必定であります。最近傳へられて居る救國公債五億圓の募集が今頃になつて漸く一億に達したか達せぬかである。若しあの際ぐつと推して上海で特別陸戰隊を席捲してしまふといふことでありましたら五億やそこらの公債は直ぐにも募集し得たでありませうし國際間にも信用を博する。北支に於て我軍が如何に大勝利を得たと致しましても、さう今日の前途を樂觀することは出來なくなる。日本に對しては餘程不利になつたといふことは凡そ誰にも想像し得ることであります。それだからこそ特別陸戰隊は特に守つたと云ふ譯でありませぬが兎に角能く守つた。前線に出まして當時あなた達は其の四五日間に於て何時間寢ましたかと云ふと、何時間と云ふ御質問は恐れ入ります。何分間寢たかと云つて戴きたい。これは決して皮肉ではない、實際向ふの前線にある將兵は、四日間の間何時間寢たと云ふ人はさうありませぬ。何分間と云つて貰つて適當な答が出て來るのであると云ふ話でありました。又私の行つた所の前線が海軍特別陸戰隊の人達でありますが、不圖見ると皆年寄ばかりであります。もう中隊長は五十近くに見える。一等水兵、二等水兵は三十位、こんな年寄の人を出したのかと私會つた時には考へたのですが、よく話して見ると皆まだ子供らしい水兵さんなんです。そこの一番高い指揮官と云ふのは大尉であります。これ亦實に無邪氣な青年學校である。皆もう鬚はのびるま

丶風呂にも十何日這入らない。汚れと髭とでありまで年寄じみて見えて居るといふことを直ぐ考へた譯でありますが、いづれも少くとも十歳以上年上に見られる程であります。つく〴〵これは成程若く見て貰ひたいと思へば朝起きた時には髭を剃らなければならぬものだ、風呂にも這入らなければならぬものだと考へたわけであります。

上海に實際戰爭して居つて、國際關係をどういふやうにうるさく感じて居るかといふことを、第三艦隊司令長官長谷川中將を旗艦出雲に訪問致しました時に聞いて見ましたが、まあ數へればきりがない。先づ司令官は片一方を指して曰く、あの浦東側の敵の陣地を見て下さい。あすこには英國人の經營して居る工場なんか澤山ある。あの工場にへばりついた所に陣地がある、擊たうにも擊ちやうがない。如何に我が兵の射擊が正確であると云ふとも建物に喰ついて居る陣地を建物を擊たずに擊てるものでない。曲射砲といふものでもさううまく上へ上つて下に落ちるものでない。やはり少し斜めに落ちるものです。尙ほ又建物の多數重り合つて居る其の間に敵が居る、曲射砲なんか擊てるものでないといふことでありました。尙ほ又今日もまだ〳〵電燈は軍艦も消して居るだらうと思ひますが、私が參りました時、戰鬪が起りましてから半月以上經つてからでありますけれども敵の空襲を警戒して船は夕方から電燈を外へ漏れないやうにして居る。此の暑い時に碇泊した船の上で電燈を消して仕事をする譯に行かぬから、部室の中は電燈を點けなければならぬ。それを漏らさない爲に隨分乘組員一同非常に暑い目に遭つて居るわけです。外國船はまあ勝手に點けて居ることは御隨意である。所が夜汽艇が通る、其の汽艇がまた電燈を消して通つて居る。警戒して居ると、夜

目にも支那のでない、外國船、親切に電燈を消して呉れて居ると思ふと、我が軍艦の側を通る時にボーツと點けて又消す、これはランチの名前で英國の艦であるといふことさへも充分分るやうにそんなことをやつて居るといふ話もきゝました。

長谷川中將は日本海大海戰に於ては三笠の乘組員で、當時はまだ少尉候補生位だつたと思ひますが、あの明治神宮の壁畫にも東鄕大將の後ろに眼鏡なんか覗いて居る人がありますが、さういふ意味では日本海の大海戰の方が餘程樂でした。さへぎる者もない、目に見えるものを擊てばよいのですから、其の點は餘程今度の方が苦しみますといふことでありました。

尙ほ日本人の多く住んで居る虹口一帶の居留民は軍人でない、全部が又非常管制とか警戒管制とか云ふやうなゆつくりしたものでない。もう初めから非常管制で電燈を消して居る譯でありますが日本總領事館から普通に吾々が歩きまして、五六分かゝる所がソヴイエト聯邦の總領事館でありますが、新聞に出て居りましたが、夜單に電燈を消さないのみならず、屋根の上で黃色い電燈を點けたり、青い電燈を點けたり、而もそれを點けたり消したりして居る。明かに日本總領事館がどこにあるといふことを支那側に知らして居るものである。而も總領事館のはたに郵船會社の波止場がある。そこへ旗艦出雲を繫いであつた譯である。同時にこれは旗艦出雲を空襲する目標を示すことになる。實際若い兵、將校達はあすこへ一發擊ち込んでやらうか、かう云ふ氣持になるのは當然でありませう。さう云ふ行爲をして居りながら、これを擊てぬといふことは軍人として一番辛い所らしく敵と彈を擊ち合つて食事を攝る暇もないと云ふ苦しみよりも敵對行爲をして居る者を攻擊するこ

とが出來ないと云ふことは如何に辛いか、考へて見ても判るところであります。

其の後**ソヴイエト**聯邦と支那は八月二十一日に調印した例の露支不可侵條約と云ふものを廿九日に發表してゐます。

かう云ふやうに日支兩國の間にうるさい問題が起つて居ります時に、あゝ云ふ條約を結ぶことは非常に日本に對して惡意のあるものであると云ふことは勿論でありますが、單にあれだけの條約でなく、あの背後には色々のものがあるであらうといはれて居ります。飛行機を供給するとか、其の他の武器を供給する。北支に於て各方面共戰況は相當活潑でありますが、就中平綏線方面、北京から張家口、大同、綏遠、それから終點は包頭、あの鐵道沿線の戰況が特に活潑であると云ふことについて私は想像するのでありすまが、**ロシヤ**と支那との交通を出來るだけ絶たうと云ふ意圖の下に我軍が特に敏活に活動して居るのではないかと思つて居ります。飛行機なんか空中輸送すればどこからでも持つて來ますけれども其の外の武器を鐵道以外で輸送するといふことはさう簡單ではありませぬからあの鐵道を日本が遮斷するといふことに依つて**ソヴイエト**からの武器の供給といふことは絶對不可能にはなりますまいけれども餘程困難になるであらうと思ひます。尙ほ今日まで**アメリカ**の飛行士とか**ソヴイエト**の飛行士とかゞ戰場に出た模樣はないと云ふやうに聞いてをりますが、たゞあの航空根據地を襲つた場合に、地上にある敵の飛行機の逃げ方なんといふものがどうも技術が少し上手なやうで、あそこらには教官がをつて、日本軍を攻めて來るやうなことはしないにしても飛行機の安全を圖る爲に逃げると云ふ位の時には教官も手傳つて居るのぢやないだらうかと言つて

居る人もあります。

現在既に支那の航空兵力の大部分が日本軍の爲撃破されました爲、これから先列國の飛行機を輸入したからと云つて技術者をも連れて來ない限りさう支那の航空兵力が增加されようとは思ひませぬ。特に**アメリカ**に於きましては此の日支紛爭に參戰する者には國籍を奪ふといふやうな取締をもやつてをりますから、米國人の參加といふことは餘り豫想されて居りませぬが、たゞ**ソヴイエト**聯邦の東亞に於ける假想敵國が日本である、もう假想敵國を通り越して居ると云つてもよいまでに來て居るといふことは明々白々、**ソヴイエト**軍人が日本の軍隊の戰鬪力を偵察するため色々密偵を使つて居るといふことは蔽ふべからざる事實であります。隨つて上海或は北支方面で相當大規模な軍事行動を我國が執りつゝある、此の我國の軍事行動を偵察するだけでも日本軍の戰鬪振りを見る爲には餘程參考になる譯ですから、眞面目に日本軍に刄向つて來るか來ないか別と致しましても、兎に角南北戰線に**ソヴイエト**飛行機がやつて來て日本軍の戰鬪振りを偵察する、まあたゞ見に行きたいと云つても支那でもいゝ氣持を持つて呉れまいから、爆彈の二十や三十はお土産に持つて來て、戰地に於て日本軍を偵察するといふことは、これは戰期が長引けば長引くだけあり得ることゝ私は考へてをりまするし、又軍人に聞いて見ても其の位のことは覺悟しなければなるまいと云つて居るのです。

今日の**ソヴイエト**聯邦は、今年五月六日に起りました例の國防次官**トハチエフスキー**元帥の銃殺問題以來、非常に內紛が繁くして、容易に事を國外に構へ得ない情勢に在ることは、これは多くの

意見の一致して居る所であります。**ソヴイエト**軍隊は**ウオロシロフ**將軍が最高地位でありますけれども、實際はもう全軍の指揮は**トハチエフスキー**元帥が握つて居つたと言つて居つたに拘らず、此の**トハチエフスキー**元帥が銃殺されて、**トハチエフスキー**元帥に重用されて居つた多數の軍人も非常に不安の念に今駈られて居ると云ふ譯でありますから、成程事を外に構へるといふことは容易でありませぬ。日支最近の關係を顧みますならば、實は**ソヴイエト**聯邦が、成るべく日支兩國を正面衝突させて日本の國力を少しでもそれに依つて低下させたい。かう考へて居つた**ソヴイエト**の手に日本も支那も乘つたと云つて差支ない程であります。

さういふ策戰を世界各國に向つて執り出したのは大休三四年前からでありますが、明かに日支兩國に對してもさういふ方針を執り出したといふことが表面に現れたのは一昨年七月、八月にかけて開かれました第七回**コミンテルン**大會に於て、日本と云ふ國名は使つて居りませぬ、支那といふ國名は使つて居りませぬけれども、**フアツシヨ**排戰國に對抗する爲には共產主義が似て非なるものとして敵として居つた社會主義國とも手を握るといふことを決議して居る。要するに此の東亞方面に於きましては日本を抑へる爲に支那を使つたと云ふ譯であります。さうしてさういふやうな決議を發表したのみならず其の後に於ては支那の人民戰線結成に努めまして極力日本と支那と正面衝突させるようにした。日本に於ては之を非常に警戒して居りました。滿洲事變以後日本の對支外交方針といふものは强硬一點張であつたと言つて差支ない程でありますけれども、昨年八月、九月にかけて私共の友人渡邊洸三郎君が成都で殺されたのをきつかけに、北海に於て日本商人が殺された。

上海に於て軍艦乘組員が殺される、漢口に於て領事館巡査が殺されるといふやうな事件が起りまして從來の日本の對支外交方針でありましたならば當然兵力を以て支那に臨むだらうと考へても差支ない程大きな問題が起つたのであります。所が御承知の如く川越大使は武力で威嚇するといふやうなことは一つもなかつた。之を所謂樽俎折衝の間に纏めようとしましたが、もう奢りに奢つた支那のことでありますから武力を背景としない日本の外交のうまく行く筈はない。去年の川越大使外交は、川越大使にはお氣の毒でありますけれども成功しなかつた。勿論これは決して川越大使の責に歸すべきものでありませぬ、けれども兎に角大失敗に終つた。畢竟一方に於て日本に於きましては支那は成程一擊に値する暴逆なことをして居る。併し今日本が起つて支那に一擊を加へるといふことは畢竟**ソヴイエト**の策に乘ぜられる所以である、と云ふので、從來あれだけ强硬な態度であつたに拘らず、あの頃からすつかり柔かくなつて、其の後も色々問題が起りましたけれども日本は依然として頗る軟弱だと云つてよい程の外交方針を執つて居つた者であります。今年七月七日の深更に例の蘆溝橋の衝突が起りましても、不擴大方針〳〵、朝から晩まで不擴大方針と言ひつゞけて居つたのであります。これは決して外交辭令ではありませぬ。勿論、個人と致しましては外交官にしても軍人にしても、もうやりきれぬ。何、露支併せてやつてもよいぢやないか、やれ、といふやうな强硬意見をもつた人がありますけれども、それは個人の意見である。帝國政府或は支那駐屯軍司令部の方針として採用されましたものは徹底した不擴大方針でありました。畢竟**ソヴイエト**の策に乘ぜられてはいかぬといふことが主なる原因であつたらうと思ひます。併し悉くが我が方針の通りになるも

のでない。支那と云ふ相手があることでありますし、相手はもう抗日に燃えたつて居る。北支に於きましても上海附近に於きましても、日本が不擴大方針を執つて居るにも拘らず先方の遣方に依つて遂に今日の如く兩國の正面的大衝突といふことになつたと信じていゝと思ひます。これは軍人が無軌道なことをすると云ふ非難がともすれば世間にあるやに傳へられるのを辯護する爲では決してありませぬ。外交官の無能を叫ぶ人があります。これは又外交官の無能でなかつたのであると云ふ辯護の爲にかういふやうに申すのでありませぬ。私は日本が徹底的に不擴大方針であつたといふことを深く信じてをります。寧ろ今日から見ましたならば私は不擴大方針が餘りに嚴格に守られた爲に事茲に至つたのでないかとさへ思つてをります。もう八月十四、五日頃は日本は大衝突と云ふ穴藏に足を一歩も二歩も這入りかけて居る。這入りかけて居る時に序に足を五歩も六歩も入れて身の建直しをしましたならば、まだ起き直ることも出來たでありませうが、一歩二歩足を踏み込みながら不擴大〳〵と云つて居る爲に、姿勢を立直す遑なくずる〳〵引つ張り込まれたのであるとさへ私は考へて居る程であります。

かうしてソヴイエト聯邦側では恐らく今日の日支兩國の關係を手を拍つて喜んで居るでありませう。若しトハチエフスキー元帥銃殺の問題がなく、ロシヤの國内が整備して居つて一方又ヨーロツパに於ける國際情勢が餘り悪くなかつたならば、それは事を構へて必ずや日本に迫つて來たに違ひないと思ひます。國内の情勢が意にまかせぬ爲にそこまで積極的に出る力がない。それなら何にも悪戯をせずに居るかと申しますと只今申上ますやうに露支不可侵條約を結ぶとか或はソヴイエ

トの領事館の上では色んな明滅燈を點けて信號するとか云ふやうな悪戯をしてをります。今後と雖も戰爭の一歩手前に至るまでは悪戯をしつゞけるだらうと思ひます。これがまた非常に危險な譯であります。ロシヤの目から見て、茲まで悪戯をしたでは戰爭にならぬだらうと思つて進んで來ました所が案外日本から見ましたならば、もうそこは痛い所である。單に爪を切つたのでない。爪の脊の肉に針がさゝつたやうな所で日本としては起たなければならぬといふやうな所までロシヤは進んで來るかも知れませぬ。日本の觀察する所、ソヴイエトの觀察する所、戰爭と戰爭にならぬ境の所が一致して居りましたならば私は日露兩國の衝突することはもうあるまいと思ひます。併しお互に日本の爲を思うて居る日本人と雖も、あの政黨爭ひに依つて見られる如く觀測違はあります。日露兩國の間に、これが戰爭になるかならぬかの境だと云ふ見解が一致するといふことは寧ろ不思議であります。一致しないと云ふ方が普通ではないかと思ひます。かういふやうに離れて一致しないならばそれは戰爭になりませぬ。これが日本はかう、ロシヤはかうと、逆に入つて來ましたならば、これはもう兩國の衝突が近く起るかも知れぬと云ふ懸念が多分にある譯であります。

日本の陸軍の方針がどこにあるか、私は一向聞知致しませぬけれども必ずやソヴイエトに對して十分備がなされつゝあるものと考へます。現に只今申上げました平綏線方面の戰況が非常に活潑である。恐らく距離で申しましたならば、或る一つの策戰基地から最前線まで進んだ距離としてはあの平綏線方面の距離が一番遠くへ行つて居るだらうと思ひます。さういふやうなことをやつて居るといふことはやはり一つのソヴイエトに對する日本の警戒と申しても差支あるまいと思ひます。

支那をうんと叩いて、日本に對して反擊して來る力のない程まで叩いた上はもう日支交渉はどうならうとあゝならうと構はぬ。直ちに軍を反してシベリヤに叩き込むのだ。それに限るなんといふやうなことを言つて居る人もある程です。

先日もロシヤの研究をして居る人が東京からやつて參りまして、東京の方の空氣を傳へて呉れましたが、色んな人の意見を聞いて見るが、やはりロシヤは容易に起ち得ないといふことは大体分つて居る。大体何時起つかといふことについても人に依つて非常に違ふし、先づ最も早く日露の衝突が起るだらうと云ふ人の意見に依ると、これは今年の結氷期である、タンクがウスリー河、黑龍江を樂に渡り得るだけの氷が張つたならばソヴイエトは出て來るだらう、と云ふのである。最も晩いと云ふ人は、結局日露は相戰はず、と云ふ意見の人もないではない。要するに今年の十二月から先はずつと色々の意見が岐れて居ると云ふ話でありましたが、私もさうロシヤの方は實は研究して居る譯ではありませぬが、色んな人の話を聞いて見ましても、さう急には起らぬ。併し一方支那に對して日本は相當兵力を割いて居る。此の戰の結果勝つといふことは私は信じてをりますけれども、勝ち方には色々あります。たゞ敵を追つ拂ふと云ふ勝ち方もあるでせうし、もうすつかり本當に文字通り殲滅すると云ふ勝ち方もあるでせう。たゞ敵を追拂ふと云ふのと、敵を殲滅すると云ふ勝ち方の差は相當大きな開きがあります。其のどこで勝つか、勝ち方次第に依つては日本の國力も大して疲弊は致しますまい。併し又同じ勝つにしましても、勝ち方次第では國力の疲弊が甚しいかも知れませぬ。若し我國の國力の疲弊が甚しくなつたといふことになりましたならば、一年先、二年先の日

本とソヴイエトとの關係といふものは安心出來ないだらうと考へてをります。

一体日本がどの位の兵力を支那に使つて居るかといふことは私も一向存じませぬ。相當の兵力であらうとは思ひますけれども一向兵數は分らない。軍事豫算は如何にも議會を通りましたから數字は分つて居りますが、あれだけで一切合財が濟むかどうか。今度の通常議會にどれだけのものが出て來るかといふ樣なことは私共にはまだ分つて居りませぬ。隨つてどれだけの犧牲を日本は拂はなければならぬかといふことは今日これを計上し得る人は先づ餘程冒險をする人でない限りあり得ないことであらうと考へてをります。上海には日本の商工業が相當發展して居る譯でありますから實業家も相當居る譯であります。其の人達に聞いて見ましても、まあ色々の說があります。自分自身が非常な苦しみを受けつゝある。自分がして居る事業が將來どうなるかといふことについては切實な關心を有つて居る次第でありますから、眞面目に考へてこれを大使館なり或は軍人なりに愬へて居る人もあります。それらの人の意見で、極端な話かも知れませぬけれども、樂觀材料もないわけでありません。(中略)

將來に於ける日本の支那に於ける經濟的利益といふものを悲觀しない議論、而も實際現在非常な損害を受けて、一体此の下半期の決算をどうすればよいか、況してや來年上半期のことなんか見當もつかぬと云つて非常に困つて居る人で、相當に樂觀して居る人もあるといふことは、吾々は其の數字がたとひ根據がないと致しましても、非常に心强く感じた次第であります。

一体日本人は氣が短い方でありまして、現に當局者に對してすら、一体戰爭は何時濟むのですか

と今日言つて居る人もある。私共よく一体何ケ月かゝるでせうか、と云ふ質問を屢々受けることがありますけれども御承知の如く支那は長期で行かうといふことを初めから言つて居る。尤も此の支那の廣言も至つて杜撰な計算の下に於てなされたことでありまして、長期抵抗と云ふことはさう易々行はれるものでありませぬ。併し共産黨を抱擁した支那人の常識といふものは平素の支那人の常識とは餘程變つて來て居るに違ひありますまい。支那人は御承知の如く非常に現實的な國民でありまして、決して感情、**フイーリング**に走ることなく、もう一つの勘定、**アカウンタント**ばかりに執着する國民でありますけれども、共産黨を抱擁した支那人となると、これは非常に**アカウンタント**を忘れて**フイーリング**の方に走る惧が十分あります。支那人として**ロシヤ**と手を握つて長期抵抗する、そんな馬鹿なことをする筈はないと云ふのは、これは平素の支那人を見て吾々がかく斷案を下し得る譯であります。けれども共産黨を抱擁した支那人といふものは實際氣狂染みたことをやる惧が十分にあります。不擴大方針々々々々といふことを云つて居りました當時から、不祥なことはお互に豫想したくありませぬけれども、油斷すると大變なことになると云ふ聲は日本の軍人の間にも政治家の間にも國民の間にも屢々聞かれた所であります。勿論帝國政府に於ても、それに對する備は十分にあるでありませう。あるでありませうけれども其の懸念が全然ないと云ふ譯でないといふことは吾々は忘れることは出來ますまい。

私には一体日本はどれだけの兵力を北と南に使つて居るか分りませぬから、どこで戰爭を結び目とするであらうかといふことは分りませぬが、況してさういふことは秘中の秘でありまして、當局

者からこれを聞くことは一切出來ませぬ。

日本軍は支那軍をウンと叩くことは必定でせうが、それで果して支那が参つた、と云ふであらうか、言はぬであらうか、これは非常な疑問であります。況して先程申上げましたやうに氣狂染みた行動を執る共産黨と手を握つて居ることであります。愈々以て豫想を許しませぬ。けれども滿洲國を奪はれてから支那は國力が發展して居ると云ふ不思議な國であります。私はいつも言つて居ることであります。支那の國家は近代的要素を次第に持ちつゝあるとは云ひながら、まだ〳〵日本や其の他の列强には及んで居りませぬ。謂はゞ下等動物であります。蚯蚓は三分の一切られましても三分の二の方は一向平氣で生きてをります。滿洲國を取られて却つて國力が、國民の努力に依つたとは云ひながら、發展したといふことは手一本取られても生き得る國であつたからでありませう。隨つて相當に叩きつけても或は参つたと言はぬぢやないか、と云ふ懸念は十分にあります。さあさうなると、所謂長期抵抗といふことが起つて來ないとも云へない譯であります。又うんと抑えつけて置けば支那に内訌が起るだらうと云ふ説もありますが、これに對しては反對論者によると、兄弟牆に鬩げども外其の侮を防ぐ、と云ふ、あれは支那の言葉だが、國難が來た時に、さう支那人は喧嘩するものでないと云ふことを言ふ人がありますが、實際此の支那人と色々交際つて見てをりますと反對のやうです。まあ家貧にして夫婦喧嘩の起ると云ふのは多々あることでありますが、支那人は寧ろ其の方ぢやないかと思ひます。例の支那の**スポーツ**で非常に盛んにやつて居るのは**サツカー**でありますが、あの**サツカー**の仕合を支那人がやつて居るのを見ますと、自分の方が負け出す

と互に責任をなすり合つて喧嘩し出します。それはもう不思議な位です。**ゴールキーパー**の責任ぢやないといはれて居るやうな時にでも球が入つて得点されると、みんな寄つて**ゴールキーパー**をなぐちんばかりに、馬鹿つと云つて責めたてゝ居るのですが、寧ろあれが支那人の國民性ぢやないか、と思つてをります。さうして見ますと或る程度に日本軍が支那軍を叩き、さうして大都市を飛行機で威嚇するといふことになりましたならば支那に内訌が起るといふことは絶對確實であると云ふことは申上げられないにしても期待されると云ひ得るのではないかと思ひます。あれだけ支那が共産黨を抱擁して氣狂染みた行動を執りながらも未だ國交斷絶をやらない。日本に來て居る大使も此の間引上げるとか云ふやうな電報が上海方面から來て居りましたが、東京の方では一向引上げる樣子が見えない。あゝ云ふ所を見ると何とかしてひどいことにならずに此の戰局を收めたいと云ふ希望が支那の一部にあつたといふことも想像せられない譯ではありませぬ。さうして見ますと、支那はどうして結末をつけるか、やはり其の時には英國に泣きついて仲介の勞を取つて貰ふ。國際聯盟なんか色々のことを言つてをりますけれども、これは滿洲事變の時とは餘程樣子が違ひまするが爲に大した問題になりますまい。**イギリス**の存在といふことは、此の日支紛爭の解決と云ふ時には餘程日本に取つてはうるさい問題として殘るのではないかと考へられます。

時間が迫りましたので十分意の徹底しない所がありましたけれども、一つあ**ヒューゲッセン**大使の問題を附加へさして戴きたい。御承知の如く、あれは狙撃されるや直ちに英國總領事館は、日本の飛行機に爆撃され、更に機關銃の掃射に依つて負傷したのであると發表して、發表後數日にし

て陳謝、保障といふことについて强硬抗議を日本に寄せてをります。私は其の射撃事件があつた直後に先方へ參つたのですが、行つて樣子を聞いて見ますと、日本人はあの問題を餘り氣にして居ないのです。何故さう樂觀するのか、まあそこらで少し聞いて來たまへ、それはもう安心ですよ。それはもう少し上海に居れば直ぐ分りますよ、と云ふ話。いやさう長い間上海に居るのでないから、そんな手數を掛けられるやうなことを言はずに話して呉れ、と聞いて見ますと、英國がどう思うてあゝ云ふやうに早いことを輕卒に發表したのか、日本がやつたと云ふ確證がどうもないのです。さうして上海に居る英國人が**アメリカ**の新聞記者なんかに話して居るのを聞いて見ますと、もうあの問題は餘り言はぬやうにして呉れ。詰り非常に輕卒にやつたことを寧ろ後悔して居るのぢやないかと思ふやうな節が實際あります。國際關係を特に荒立てる必要がありませぬから、日本當局者はあゝ云ふやうな極く鄭重な回答をして、今の所證據がないから何とも仕方がない。尙ほ併し殘された所は調査しませう、と答へてをりますけれども、もうこれ以上調査しようもない樣子です。**アメリカ**人の新聞記者なんか、あの問題で一番困つて居るのは英國で一番快哉を叫んで居るのは日本だらうとまで言つて居る程ださうです。老獪な英國ですから餘り日本が快哉を叫んで居るやうな態を見せましたならば飛んでもない證據を見せつける懸念がないとは云へませぬ。日本の方でも極く愼重にしてをります。新聞にもあの問題では英國をひやかすやうなことは書かぬやうにして居ます。これが東洋道德のよい所であります。英本國に於ても寧ろ保守黨員の中には此の問題では態あ見ろ、**イーデン**外相のやうに神經質にやるからこんなことになるぢやないか、とさへ思うて居る、といふ

說があるさうです。隨つてあの問題がもつれて來て日本が窮境に立つといふことは萬ないだらうと思つてをります。尙ほ海軍當局に聞いて見ましても、今まで調べたる所では、あの時間にあの地方へ飛んだ飛行機はないといふことを言つてをります。まあ吾々としては安心してよいぢやないかと思ひます。

支那事變と國際關係といふやうな大きな題目を揭げまして、結論何一つ申上げなかつたことは大變慚愧の至りでございますけれども、私の持合してをります材料が極く貧弱でありますゆゑに、さういふやうなことしか申上げられませぬ。此の点どうぞ十分御諒承お願申上げまして此の壇を降りることに致します。（拍手）

昭和十二年十二月一日印刷
昭和十二年十二月六日發行

【非賣品】

編輯兼發行者　京都市上京區紫竹桃ノ本町五十一番地　後藤正治
印刷者　京都市中京區三條通柳馬場東入　小澤譽理太
印刷所　京都市中京區三條通柳馬場東入　合資會社點林堂印刷所

發行所　京都市中京區高倉通錦小路上ル五百六十五番地
社團法人京都銀行集會所內
京都經濟會
電話本局三一四一番(4)

終